

週刊 タバコの正体

Vol. 18

第18巻 (2011.1.13~2011.3.24)

第1話	喫煙室
第2話	社会的損害
第3話	国民皆保険
第4話	がん治療費
第5話	がん死亡者数
第6話	何かんがえてんの！
第7話	消えゆくタバコ
第8話	タバコ・パンデミック
第9話	ホテルニュージャパン
第10話	東日本大震災
第11話	一滴の水

Zero **T** Project
obacco
In WAKO Since 2005

2011年を迎え、早くも2週間近く経過し3学期の授業が始まりました。3年生は最後の学年末考査が、2年生は修学旅行が、1年生はインターンシップが、それぞれに迫って来ていますので気を引き締めて、新しい年のスタートを切ってください。

さて、和歌山県では今年から「タバコが吸えない」場所が一挙に1745ヶ所も増えました。というのは県内にある1745台のタクシーが全車禁煙になったからです。これで日本からタバコが吸えるタクシーがなくなりました。つまり、和歌山県が全国で最後だったという事です・・・。

ともあれ、非喫煙者がタバコを吸わされる事を防ぐ“受動喫煙防止”対策は、公共交通や公共施設に限らず一般の職場でも必要不可欠になってきているので、職場内でタバコを吸う事をOKにするなら、煙が漏れない下図のような喫煙室を作らなければなりません。

仮に床面積10㎡、壁面積20㎡の大きさの部屋を作ると、総額450万円以上もかかります。健康を害するタバコを吸うためなのに「なんと、もったいない」と思うでしょう。それに、そんなスペースを確保する事ができない職場だってあるはずです。喫煙室を作るスペースも予算もないとしたら、非喫煙者に「タバコの煙とニオイをがまんして仕事をしてください」なんて、昔のように言える時代ではありませんし、労働安全衛生上、許されません。

だから、喫煙者に「禁煙してみませんか」と勧めるのが本人の健康のためにも、会社のためにも良いはずです。そして、明日の日本を背負う君たちが、タバコを吸い始めない事が一番いい方法です。

産業デザイン科 奥田 恭久



換気扇	約5万円～
間仕切り	約170万円～
床材	約4,500円/㎡～
壁材	約3,000円/㎡～
(OP)分煙機	約55万円～
(OP)脱臭機	約210万円～

予算例の中の名称または、イラスト内のアイテムをクリックすると、機能や予算の概要を閲覧できます。個々の状況に合わせて、必要なアイテムをチェックして下さい。名称内の(OP)は、オプションを意味します。

J T 「SMOKER'S STYLE」 サイト
分煙スペースのつくり方 から

前回、タバコを吸うための喫煙室を作るには百万円単位の費用がかかる事を紹介しました。この費用は、非喫煙者をタバコの害から守るために必要な経費ですが、タバコを吸う人がいなければ必要ありません。そして、喫煙による作業時間の損出や、タバコによる病気療養の可能性が高くなるなどの理由から、社員を採用する際、喫煙者かどうかを選考の材料にする企業は増えているそうです。

経営上、タバコ関連の損失が目目されてきていますが、喫煙者たちは、一体タバコにどれくらいのお金と、時間を費やしているのでしょうか？

仮に40年間、毎日一箱吸ったとすると $410円 \times 365日 \times 40年 = 598万6000円$

1本につき10分とすると $10分 \times 20本 \times 365日 \times 40年 = 292万分(約2000日=5年半)$

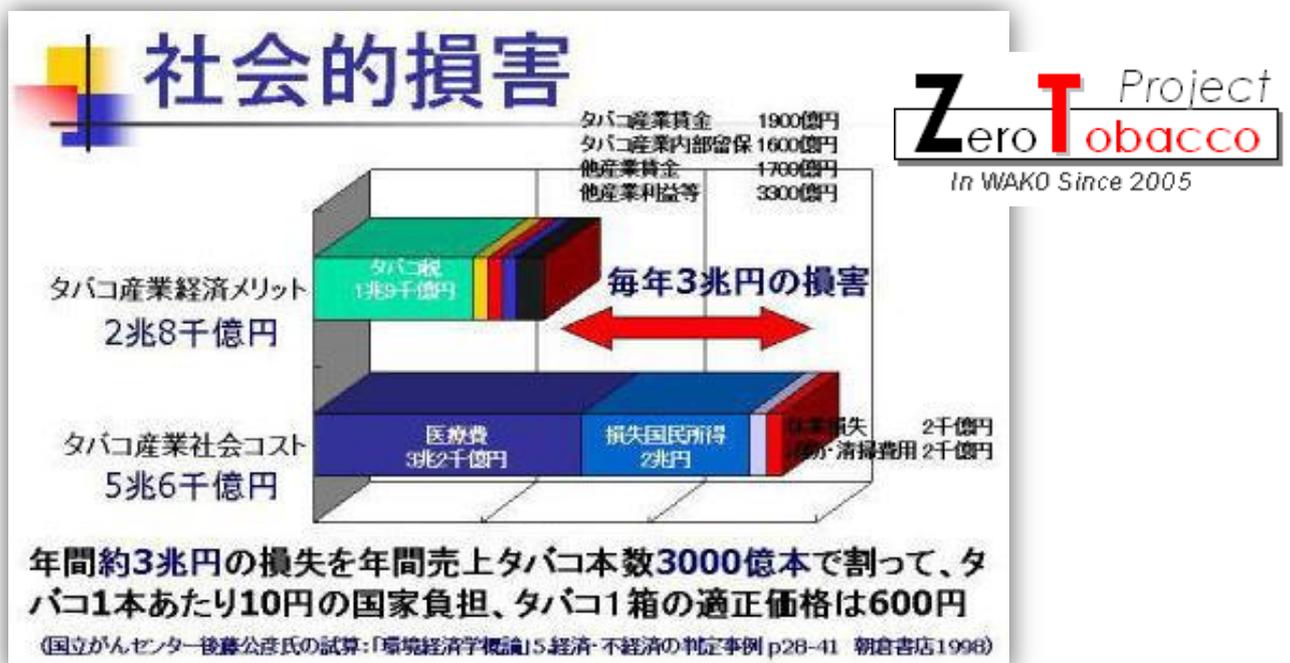
これだけのコストをかけて、何が得られるのでしょうか？

「ストレスが解消できる」と答える喫煙者が多いかもしれませんが、でも皆さんは、それは「ニコチン切れによるストレスが解消できるだけ」の事だと知っていますよね。つまり、タバコを吸い始めなければ感じる事がない、ニコチン切れを解消するだけの事ではしかありません。それどころか、これだけのコストをかけて病気になることが圧倒的に多いのです。40年間で600万円もつぎ込んだうえに、肺がんや脳梗塞、心筋梗塞にかかると、さらに治療のための医療費と時間が必要となってしまいます。

買う側から見れば、まったく良いことがないタバコですが、下のグラフにあるように、売る側から見れば多額のタバコ税が国や市町村に納められるので、財政上無視できない収入源となっています。

でも、よく見てください。無視できないくらい大きな収入をあげているタバコですが、それを上回る損害を出している事を知っておかなければなりません。

産業デザイン科 奥田 恭久



何かのはずみでタバコを吸い始めると、アッという間にニコチン依存症になってしまい、気がつけば毎日喫煙してしまっている、というのはごくありふれたケースです。そして何十年も喫煙を続けると、何百万円ものお金を使ったあげく、病気になってしまうケースもありふれています。だから前回紹介したように、タバコによる病気の医療費が日本全体で毎年3兆円を超えているのです。

では、この3兆円という莫大なお金は誰が払っているのでしょうか？

「そらあ、病気になった人が払ってるんちゃうん」・・・としか答えられないように思うでしょう。でも、じつはそうでもないのです。

みなさん「国民皆保険(こくみんかいほけん)」という言葉を知っていますか。

病院に行く時は、必ず“保険証”を持っていくでしょう。そして受付では必ず「保険証はお持ちですか」と聞かれますよね。この“保険証”が「国民皆保険」と大いに関係しています。

保険証を持っていくと、治療費を支払った際にもらう明細書には、“自己負担3割”という文字が入っています。ということは残りの7割は誰が払うのでしょうか。・・・じつは保険証を発行しているところが払ってくれるのです。では、保険証は誰が発行しているかというと、勤めている会社などが協同で運営している健康保険組合なのです。この組合は各従業員から毎月保険料を集めて、医療費を蓄えています。

つまり、大きな病気やケガをして払いきれない高額な医療費が必要になっても、社会全体で助け合いましょ。という目的で、日本の国民全員がなんらかの公的な医療保険制度に加入することになっています。これを「国民皆保険」と呼んでいるわけで、世界中でこんな制度を持っている国はそんなにありません。

日本には「困ったときは、お互いさま」という言い回しがあります。「困った状況」になることは誰にでもありうることです。「そんな時は、みんなで助け合いましょ」という精神の上に国民皆保険制度はなりたっているのだと思います。

だれも望んで病気になるわけではありません。でもタバコを吸い続ける行為は、まるで望んで病気になっているかのように映ります。日本じゅうの人が健やかに暮らす事ができれば、医療費や保険料も少なくなるはずです。日本の将来と自分自身のために、皆さんはタバコに手を出さないでください。

産業デザイン科 奥田 恭久

タバコによる病気の医療費が日本全体で、毎年3兆円を超えている事を繰り返し伝えていますが、今回はその具体例を紹介します。

例えば“肺がん”で入院治療を受けると、一体どれくらいのお金が必要なのでしょうか？

インターネットのサイト「がん治療.com」で、【小細胞肺がん・限局型】の治療費を計算すると次のような、いくつかのパターンが画面に現れます。

がん病変のある肺の一部を切除後、再発予防のため4ヶ月間注射抗がん剤治療を行います。さらに、脳転移の可能性がある場合、脳に放射線を照射します。極めて早期の場合の治療選択肢です。

初期治療	肺切除手術
補助療法	薬物療法 CDDP+VP-16 予防的全脳照射25Gy/10回
治療費総額	3,028,690円

手術 + 薬物療法

(早期の場合)

放射線治療の後、3ヶ月間の注射抗がん剤治療を行います。脳転移の可能性がある場合、脳に放射線を照射します。

初期治療	薬物療法 CDDP+VP-16
補助療法	放射線治療 45Gy/30回/3週 予防的全脳照射25Gy/10回
治療費総額	2,504,570円

薬物療法+放射線療法

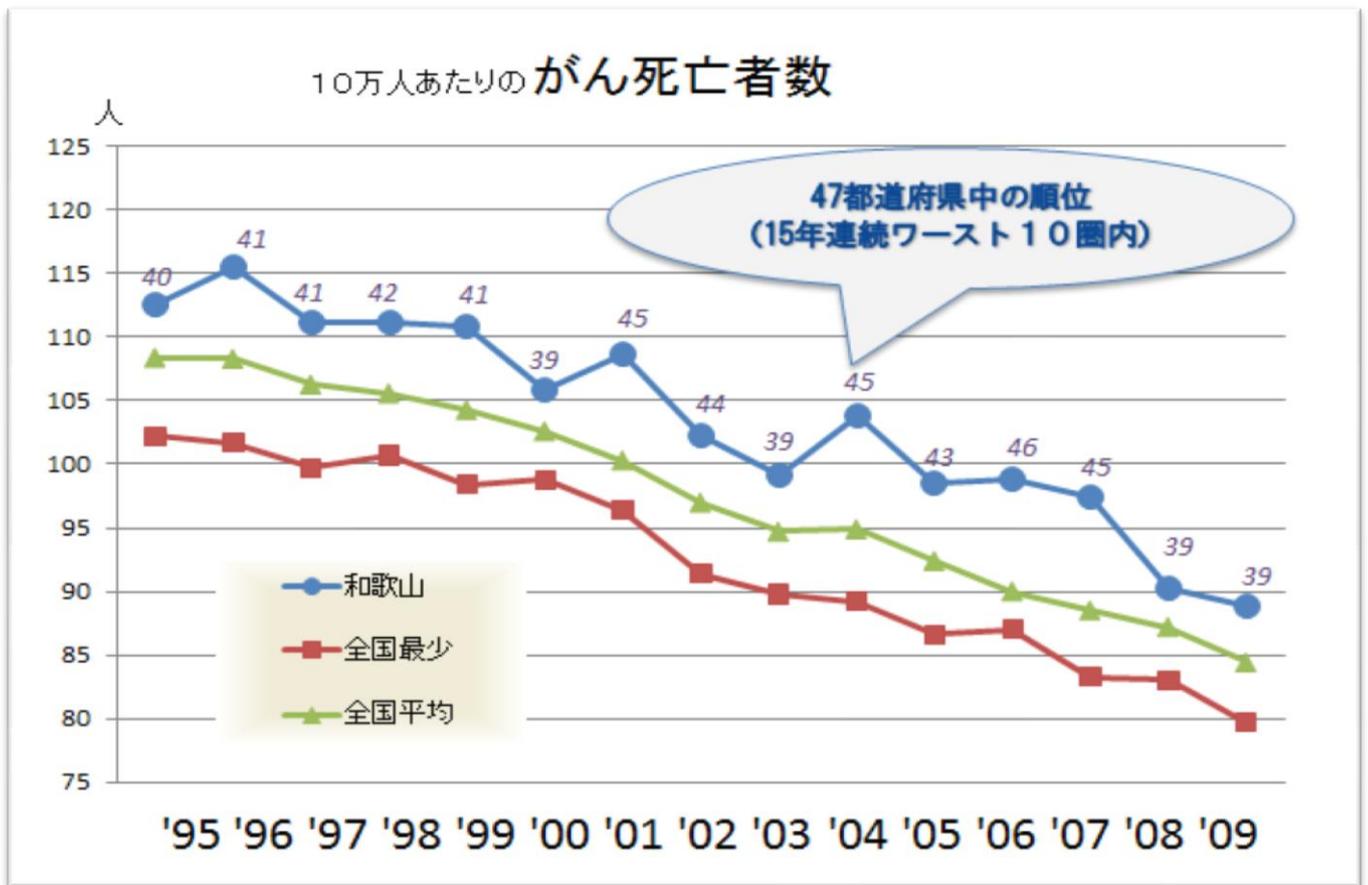
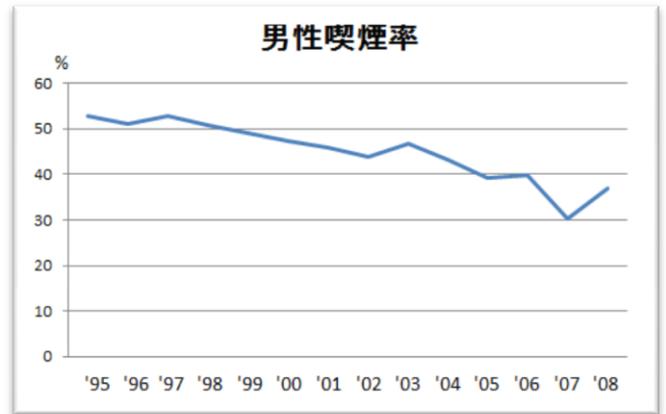
このサイトは、“がん”にかかった時のために、治療費の概要を知ってもらう目的でつくられたサイトなので、実際の治療費と一致するわけではないそうです。さらに、前回紹介したように保険制度のおかげで全額を支払わなくてもいいケースがほとんどのようです。

それにしても、一本たった20円のタバコを吸い続けると、こんなに高額な治療費が必要になってしまいます。一旦ニコチン依存になると、タバコを買うお金だけではなく、こんなお金も使う事になります。まったく馬鹿げていると思いませんか。タバコにそんな大金をかける価値はありません。

産業デザイン科 奥田 恭久

前回、“肺がん”で入院治療を受けた場合の医療費を紹介しました。肺がんになる大きな原因が喫煙であることは、世間の常識となっていますが、その他にも胃がんや咽頭がんの原因ともなります。

右上は厚生労働省が発表している男性喫煙率のグラフです。これに対して下は、国立がん研究センターが発表している「がん統計都道府県比較 75歳未満年齢調整死亡率」というデータをグラフにしたものです。



両方のグラフを見比べてください。喫煙率が下がるとがんの死亡者数も減っています。嬉しい事ではあるのですが、和歌山県人としては手放しには喜べない事もわかりますよね。

「なんで和歌山県のがん死亡者が多いのか？」はわかりませんが、とりあえず喫煙者を減らせば効果はあるかもしれません。そのためにも皆さんはタバコに手をだしてはいけません。

産業デザイン科 奥田 恭久

皆さん、校内でタバコを吸う生徒を見たことはありますか？

現在の和工では「見たことない」という人が多いと思います。でも「吸ってる子、知ってるよ」とうい人もいるでしょう。4棟3階のトイレや、新館の1階や3階のトイレに吸い殻が落ちていたり、タバコのニオイがすることがありますからね。

じつはたった6年前の和工では、生徒たちから次のような切実な声があがっていました。

『休憩時間、トイレで吸うな、捨てるな、群れるな』

想像できないと思いますが、ある特定のトイレでは、昼休みごとにタバコの煙で真っ白になるぐらいの時期がありました。その頃の生徒たちは、現在の皆さんのように“タバコの害”を教えてもらっていない事に加えて、社会全体の喫煙率が高い時代だったので、興味本位や自己顕示欲、それに仲間はずれになる恐れなどから、高校生がタバコに手を出す頻度はかなり多かったです。

でも、だからといって皆がみんなタバコを吸っていたわけではなく、『休憩時間、トイレで吸うな、捨てるな、群れるな』と思っている生徒のほうが多かったです。当時のアンケート結果によると1257人中

「学校でタバコを吸ってほしくない」と答えた人は670人に対し

「学校でタバコの煙をみても平気だ」と答えたのは241人でした。

ところで話は変わりますが、“ルール”って何のためにあると思いますか？

たとえば、「赤信号は止まらなければいけません」というのもルールです。「赤信号で止まってくれる」からこそ、青信号の人は安心して道路を渡ることができますよね。

でも、赤信号を無視する人が現れたら、どうでしょう？青信号でも“安心”して道路を渡ることができなくなります。100人いや1000人のなかで、たった2, 3人でも信号無視を繰り返す人がいれば、残りの997人には大きな恐怖となります。

さて、和工生1200人のなかに、何人かの喫煙者がいます。この人たちの行動は、1000人以上の人たちの“安心”を奪っていないでしょうか。

6年前のような状態では、昼休みにトイレに行くなんて、それこそ怖くてできなかった事だと思います。それを思うと、現在の和工のトイレは、いつでも“安心”して行くことができ、しかもきれいです。

そんな“安心”を君たちだけではなく後輩たちの時代にも、ずーっと維持できるよう、「学校でタバコを吸うなんて、何かんがえてんの！」という雰囲気と態度を保っていきましょう。

産業デザイン科 奥田 恭久

今、日本の社会からどんどんタバコは消えていっています。もともとタバコに縁のない皆さんには実感がわかないと思いますが、ちょっとそんな事例を紹介します。

日本で最初にタクシーの“全車禁煙”を実施したのは大分県で2007年6月のことでした。それからわずか3年半後の2011年1月、和歌山県を最後に日本中の20万台を超えるタクシーからタバコは消えました。

そして、次の数字も禁煙の場所が増えたことを示しています。

	2009年2月	2011年2月
東京	3,768	5,503
愛知	1,416	2,330
神奈川	978	2,139
京都	809	1,886
大阪	1,332	1,828
兵庫	752	1,295
奈良	110	284
滋賀	95	179
和歌山	17	69
	：	：
全国	12,631	21,750

これは、禁煙飲食店を紹介するインターネットサイト「禁煙スタイル」に掲載されている“禁煙”飲食店の数を示しています。こちらもたった2年で2倍近くに増えています。

タバコの煙や、いやなニオイを気にせず安心して食事ができるお店が、みなさんの身近なところにも増えていると思います。

そう言えば、なんとなく世間全体がタバコ臭くなくなっているような感じと、タバコに魅力を感じる人も減少しているような印象をうけます。

ところで、バレンタインデーにちなんで今年1月、ある製薬会社が20代から40代の男女計1200人（喫煙者と非喫煙者は半々に）に、「結婚相手を選ぶならたばこを吸う人？ 吸わない人？」というアンケート調査をインターネットで実施したそうです。

	吸わない人	吸う人	どちらでもいい
男性（非喫煙者）	87%	0%	13%
男性（喫煙者）	46%	2%	52%
女性（非喫煙者）	81%	0.3%	18%

この結果をみると、現実の社会と同じように、人々の意識のなかからも、どんどんタバコは消えていっているようです。

産業デザイン科 奥田 恭久

2週間前、和歌山県内の養鶏場で鳥インフルエンザの感染が発見されました。感染の拡大を防ぐために、その養鶏場内の全部のニワトリ(12万羽)を処分するという事態になりました。わずか数羽に感染が確認されたただけでしたが、12万羽ものニワトリを犠牲にしなければならなかったわけです。でもこれは“感染症”だからなのです。

“感染症”が蔓延することを“パンデミック”と呼びますが、パンデミックが起こってしまうと、かなり広い地域に壊滅的な被害が発生してしまいます。だから、可能な限り早く狭い区域で感染を食い止める事が重要なのです。

じつは人類にも、歴史上世界的な“パンデミック”が何度か発生しています。古くは、ペスト、コレラなどが流行しましたが、1918年に発生したスペイン風邪(インフルエンザ)のパンデミックは、世界中で感染者が6億人、死者5000万人という記録が残っています。当時世界の人口は12億人と推定されているので、人類の半分が感染していたことになります。

パンデミックは、ものすごい短期間で感染が広がり、死亡者が多発する現象なので、人々に危機感と恐怖を抱かせますが、ほとんど恐怖感を感じさせないで死亡者が多発する病気もあります。

ニコチン依存症は感染症ではありませんが、世界の喫煙人口は12億人だと言われています。現在の人口は約60億人なので、「5人に一人がニコチンに感染している」と比喩できる状況です。そして、タバコによる病気で毎年600万人が死亡しています。

通常のパンデミックは、感染するスピードが速い分、終息するまでに何十年もかかる事はありません。しかし、タバコ病の蔓延は、まだまだ終息する気配がありません。毎年600万人の死者を出し続ければ10年で6000万人、20年で1億2千万人もがタバコの犠牲者となってしまいます。

タバコ病の蔓延は、世界の多くの人たちの目には“パンデミック”と言うほど危機的な状況だとは映っていません。しかし、1世紀(100年)単位でみると「タバコ病は21世紀の疫病」と表現されるぐらい深刻な数の死者を出しています。だから、WHO(世界保健機関)は「タバコ規制枠組み条約(FCTC)」という国際条約を制定し、世界じゅうの国をあげて、タバコの害をなくす事に取り組んでいるのです。

和工には、60億人の中のたった1200人しか居ません。しかし、君たちがニコチンに感染(?)しなければ、タバコをなくす小さな一歩になります。本当に小さな一歩ですが、人類の未来には必要な一歩だと信じています。

産業デザイン科 奥田 恭久

タバコの煙には200種類以上の有害物質と、60種類以上の発ガン物質が含まれています。みなさんには、この事実を何度も紹介しているので、「そんな事わかってるし」という声に加えて、「タバコには興味ないから関係ないし・・・」という声も聞こえてきそうな感じです。

ところで、「火のないところに、煙はたたない」という諺を知っていますか。自然現象をそのまま表現しているだけの事ですが、「煙の元をたどれば、そこには必ず火がある」つまり「現象には、その原因となるものがある」事を強調するときに、よく使われます。

ということで、タバコには“火”がつきものです。初めに書いたとおりタバコの煙には有害なものがいっぱい入っているのですが、その元となる“火”も世の中に大きなダメージを与えている事も知っておいてください。消防庁が発表した「平成22年の1月～9月における火災の概数」には次のように報告されています。

	出火原因	件数	%
1位	放火	3,988	11.2
2位	こんろ	3,529	9.9
3位	たばこ	3,526	9.9
	総数	35,703	

全国で発生している火事の10%がタバコの火が原因なのです。そして、かなり昔からタバコの火は3大出火原因の一つでした。

皆さんが知るはずもないのですが、今から29年前の1982年2月、東京にあった「ホテルニュージャパン」という地下2階・地上10階建・513室を持った大きなホテルで火災があり、9時間も燃え続けて、死者33名、負傷者34名を出す大惨事となりました。出火原因は宿泊客の寝タバコでした。



タバコの“煙”は有害物質を含み、喫煙者はもちろんその周りの人たちにも被害を与えますが、たった一本のタバコの“火”が、とてつもない大災害を引き起こす場合があるのです。

タバコになんか手をださなければ、こんな事が起こることはありません。

産業デザイン科 奥田 恭久

先週の金曜日、3月11日の午後2時46分ごろ東北の三陸沖でマグニチュード9.0の地震が発生しました。観測史上国内最大の大地震となり、それに伴う大津波が沿岸の地域に甚大な被害を与えました。テレビに映し出された凄まじい映像は、とても現実のものとは思えず「うわー」と悲鳴をあげる以外に言葉が出ませんでした。

先月、ニュージーランドで発生した大地震で、語学研修のため滞在していた日本人が亡くなった記事が新聞紙上からなくならないうちに、国内でこんな大地震が発生するとは、誰が予想できたでしょうか。被災された方々の事を思うと、本当に痛たまれない気持ちで一杯です。ただただ、一人でも多くの人の無事を願うばかりです。

和歌山にも大津波警報が発令され、避難指示を受けた沿岸地域もあったので、皆さんの中には、近くの小学校などに避難した人もいたかもしれません。しかし幸い大きな被害をうけずに済んだので、今現在、こうして平穏な日常生活を送る事ができています。普通の生活ができることが、この上ない幸せな事だと感じずにはられません。

地震発生から3日が経過し、町全体が丸ごと津波に流された沿岸地域では連絡がつかない人が一万人を超えている事や、原子力発電所で放射能漏れの可能性などを伝える記事やニュースが、新聞・ラジオ・テレビで24時間報道されています。そして今、この瞬間も、住む家を失った30万人以上の方々が、不自由な避難生活を余儀なくされています。

30万人といえば、和歌山市の人口に匹敵するほどの人数です。そんな大勢の人が、何日続くかわからない避難生活を、まだなくなる余震とともに体育館や公民館や学校の教室などで過ごす事を考えると、私たち和歌山工業高校に在籍する全ての職員と生徒は、被災地に向けて最大限の関心を払い、なんらかの救援を行える機会を探るべきだと思っています。

こうした内容は「タバコの正体」にそぐいませんが、この未曾有の大災害は非常事態だと認識してもらうために、毎週発行しているこの紙面を借りました。

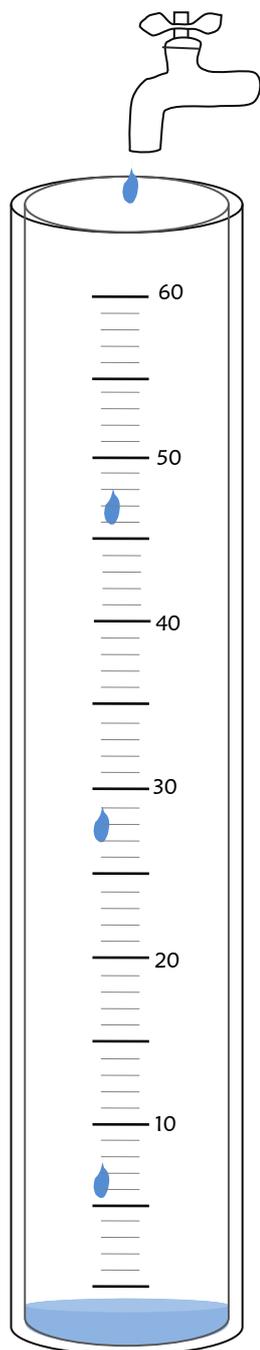
大震災翌朝のある新聞記事を紹介して、すでに犠牲となった方々のご冥福を祈ります。

「・・・夜が明ければさらなる被害が確かめられよう。生命、財産、故郷の町並み。失われたものの大きさに打ちのめされた人たちとの絆を失うまい。こんなときにつなぐための手が、私たちの心にはある。」

学校長 西脇 英雅

蛇口から落ちている水滴を目盛りつきシリンダーで受けています。一滴の水はほんの微々たる量なので、水面の高さはしばらく眺めていても変わりません。

でも、何か用事を済ませて戻ってみると確実に水面は高くなっています。仮に10分で一目盛分増えたとすると、だいたい600分(10時間)で一番上の目盛りを超えることになります。



「一体、それがタバコと、どう関係があるの?」と思うでしょうが、この一滴が一本のタバコだと考えてみてください。

タバコを一本吸ったところで、身体に健康上の変化はあらわれません。それどころか10年や20年吸い続けても、外見上は何も変わりません。だから、ニコチン依存症の人たちは「身体に悪い事はわかっていても、やめなければならない」という“危機感”を持ってないのだと思います。

しかし、喫煙者の身体の中には、左のように着実にタバコの毒が溜まっていきます。身体の中はガラスのシリンダーのように外から見えないので、危険性を感じないのも無理はありません。

取るに足りないような水滴でも、時間をかけて何百万滴も集めれば立派に役だつ水資源となります。対して、一本のタバコによる取るに足りないほどの毒も、何十年もかけて、何万本もの煙を吸い込めば、かなり深刻な健康被害を与えるのは事実です。

“一滴の水”をあなどり、見捨ててしまうと大きな水を失う事になります。では、“一本のタバコ”を甘くみると、どうなるでしょう。やがてそれは取り返しのつかない大きな病気を招く事になります。

産業デザイン科 奥田 恭久